

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25380843

研究課題名(和文)安心さがし行動の上方・下方螺旋メカニズムを規定する関係性目標の効果

研究課題名(英文)Effect of relational goals on downward and upward spiral process

研究代表者

長谷川 孝治 (HASEGAWA, Koji)

信州大学・学術研究院人文科学系・准教授

研究者番号：20341232

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：低自尊心者の安心さがしは他者からの拒絶を引き起こし、高自尊心者の安心さがしは受容を引き寄せることが示されてきた。本研究の目的は、この問題を関係性目標の観点から検討することである。分析の結果、低自尊心で安心さがしする人は、他者と良好な関係を形成しようとする接近的動機づけが低く、他者からの拒絶場面で、自己本位的な行動傾向を示した。逆に、高自尊心で安心さがしする人は、接近的動機づけが高く、他者を配慮する行動を示した。また、自尊心や安心さがしレベルに関わらず、男性の思いやり目標の高さが、女性の自己拡大・充足感を高めることが示され、上方螺旋過程の生起には思いやり目標が重要な要因となることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The prior study suggested that if people with low self-esteem (LSEs) excessively sought reassurance from their friends, they were rejected. On the contrary, those with high self-esteem (HSEs) were not rejected when they sought reassurance. Why did this difference emerge? We focused on the relational goals in order to clarify the problem. The analysis revealed that LSEs with high reassurance seeking (RS) had low approach motives that maintain their relations between their friend or partner positively, and indicated their self-centered behaviors. In contrast, HSEs with high RS had high approach motives and relation-centered behaviors. Moreover, male's compassionate goals promoted female's self-expansion and fulfillment regardless of SE and RS. These findings suggested that one of promotional factors might be compassionate goals.

研究分野：社会心理学

キーワード：自尊心 安心さがし 関係性目標

## 1. 研究開始当初の背景

安心さがしとは、重要他者に本当に自分のことを大切に思ってくれているかを繰り返し確認する行動である。低自尊心者が友人や恋人に対して安心さがしをする (Joiner, et al. 1993) ほど、相手からの評価が低下し、抑うつ状態が維持・高揚するという下方螺旋過程が示されてきた。逆に、高自尊心者は安心さがしをしても、他者から拒絶されず、受容される (長谷川・浦, 2002; 長谷川, 2008)。なぜ、低自尊心者と高自尊心者の安心さがしは、このように異なる結果を生じさせるのか。本研究は、この問題について、(1) 低自尊心者と高自尊心者は、それぞれどのような動機に基づいて、安心さがしを行うのか、(2) 低自尊心者と高自尊心者が行う安心さがしの質的な違いは、どのようなものかという2つの観点から検討を行う。さらに、それらの検討結果に基づき、どのようにすれば、低自尊心者の下方螺旋過程が解消し、上方螺旋過程が実現されるのかという問題について検討する。

## 2. 研究の目的

上述のように、低自尊心者がとる安心さがし行動は、他者からの拒絶を引き起こす下方螺旋過程の様相を呈し、逆に、高自尊心者がとる安心さがし行動は、受容を引き寄せる上方螺旋過程を生み出すことが示されてきた。しかしながら、自尊心の低い人と高い人で、このような差異がなぜ生じるのかについては、未だ不明確なままであった。本研究の目的は、この未解決問題について、なぜ下方・上方螺旋の両過程が生じるのかという発生メカニズムを解明するとともに、いかにすれば適応的な対人関係を構築できるかを明らかにすることである。

### (1) 低自尊心者と高自尊心者の安心さがしはどのような動機に基づいて行われるのか

上述の(1)に関して、本研究では、対人関係の形成・維持に関する社会的動機づけと関係目標に焦点を当てる。

まず、対人関係における社会的動機づけとは、対人関係を形成し、維持する動機であり、従来の動機づけ研究と同様、接近と回避という2つの動機からなる (Gable, 2006)。接近的動機づけとは、対人関係を良好な状態にしようとする動機づけであり、回避的動機づけとは、対人関係を悪化させないようにしようとする動機づけである。先行研究では、接近的動機づけが、友人関係における満足感などの成果を高めるのに対して、回避的動機づけは相互作用相手を不快にさせることが示されている。

この動機づけの観点から、下方・上方螺旋過程について捉えると、次のように考えることができる。すなわち、低自尊心者が、安心さがしをする場合、関係を良好にしようとするのではなく、関係を悪化させないように

しようとする (接近的動機づけが低く、回避的動機づけが高い) ために、他者から拒絶される可能性があるということである。それに対して、高自尊心者は、関係をよりよいものになろうとするために (接近的動機づけが高く、回避的動機づけが低い)、他者から拒絶されないと考えられる。

また、類似の概念として、関係性目標がある。関係性目標とは、他者との関係における自己に関する目標であり、思いやり目標と自己イメージ目標の2種類があるとされる (Crocker & Canevello, 2008)。思いやり目標とは、他者をサポートすることを重視し、他者を傷つけることを避けようとする目標である。逆に、自己イメージ目標とは、望ましい自己像を保持しようとする目標である。先行研究では、思いやり目標が高く、自己イメージ目標が低い人ほど、友人にサポートを与え、その結果、友人からサポートを受け、不安と抑うつを下げ、自尊心が高まる (Canevello & Crocker, 2011) という適応的な対人関係を構築していることが示されている。

この関係性目標の観点から、低自尊心者の下方螺旋過程を捉えると、次のように考えることができる。すなわち、低自尊心者が、安心さがしをする場合、相手のことを考慮せず (低思いやり目標)、自分の不安な気持ちに注目してほしい (高自己イメージ目標) だけの自分本位の行動になっているということである。この場合、相手はサポートを与えたくないと思い、安心さがしに応えず、最終的には拒絶することになると考える。それに対して、高自尊心者が、安心さがしをする場合、自己と他者との関係を良くしよう (高思いやり目標) と思いながら、自分の不安に固執せずに (低自己イメージ目標)、行動していると考えられる。

このような予測を検証するために、大学生ペアに対する調査と恋人・夫婦ペアに対する調査を行った。

### (2) 低自尊心者と高自尊心者の安心さがしは、質的にどのように異なるのか

上述の(2)に関して、本研究では、社会的拒絶場面における対処行動について検討した。

従来の安心さがし尺度は、友人や恋人が「自分のことを心から気づかってくれているかどうか、相手に確かめる」など、安心さがしを直接的に問う項目からなっていた。また、軽度抑うつ者の恋人との会話を測定した実験研究 (Knobloch, et al, 2012) でも、発言がどのくらい安心さがしの定義に沿ったものかを評定したのみであった。これらの測定方法では、低自尊心者の安心さがしは、具体的にどのような行動となって立ち現れるのかは明確にならない。そこで、本研究では、友人および恋人から無視された場面を想定させ、その際にどのような行動をとるかにつ

いて自由記述データを取得し、この点を明確化する。

以上の検討結果を踏まえ、低自尊心者の下方螺旋過程が解消し、上方螺旋過程が実現されるのかという問題について考察する。

### 3. 研究の方法

本研究では、大きく分けて以下の3つの形式の調査データを取得し、分析を行った。

#### (1) 大学生に対する調査

大学生 194 名に対して、他者から無視された場面においてどのような行動をとるかを検証する想定法を中心とした質問紙調査を実施した。

#### (2) 大学生に対する同性の友人ペア調査

大学生の親しい同性の友人ペアに対する 2 波のパネル調査を実施した。Time 1 は、154 ペア（男性 182 名、女性 126 名）が回答し、平均年齢は、18.53 (SD = 0.85) であった。Time 2 は、2 ヶ月後に実施し、両時点ともに回答した者は、66 ペアとなった。

また、以下に示した過去に取得した親しい同性の大学生ペアデータを再分析した。

- ① 大学生 55 ペア（男性 32 名、女性 78 名）。
- ② 大学生 64 ペア（男性 50 名、女性 78 名）。
- ③ 大学生 93 ペア（男性 96 名、女性 90 名）。

#### (3) 恋人・夫婦関係に対するペア調査

調査会社のモニターを対象に、恋人または夫婦ペアに対して、Web パネル調査を行った。Time 1 に 300 ペアの回答を取得し、その 3 ヶ月後、Time 2 として 100 ペアの回答を取得した。両時点に回答した人の平均年齢は、男性 35.34 歳 (SD = 6.11)、女性 33.30 歳 (SD = 5.71) であった。

### 4. 研究成果

(1) 低自尊心者と高自尊心者の安心さがしはどのような動機に基づいて行われるのか

① 友人関係における社会的動機づけに関する分析 (学会発表⑥)

大学生に対する調査を行った結果、高自尊心者で安心さがしする人は接近的動機づけが高いことが示された。これに対して、低自尊心者は総じて接近的動機づけが低かった。また、回避的動機づけについては、自尊心と安心さがしの主効果のみが有意であり、それぞれが高いほど、回避的動機づけが高いという結果が示された。

これらの結果から、同じ安心さがしをする場合にも、高自尊心者は相手との関係を良好なものにしようとする接近的動機づけが高いために、相手は嫌悪感を抱かず受容する可能性が示唆された。また、逆に、低自尊心者が安心さがしする場合には、接近的動機づけが低く、回避的動機が高いため、関係を悪化させないように消極的に友人と関わり、その結果、友人から拒絶される可能性が示唆され

た。

#### ② 関係性目標に関する分析

恋人・夫婦ペアに対する調査を行い、男性が女性の関係性評価に及ぼす影響について分析した結果 (図 1)、思いやり目標の高い男性では、自尊心や安心さがしレベルにかかわらず、女性の自己拡大・充足感 (いろいろな物事の興味が沸く、気持ちが安らぐ等) が高くなることが示された。それに対して、思いやり目標が低い男性では、全体的に女性の自己拡大・充足感が低いものの、自尊心が高い男性が安心さがしをするほど、女性の自己拡大・充足感が高くなることが示された。これらの結果は、自尊心が高い人が安心さがしを適切な依存関係の構築・維持のために用いている可能性を示唆するものである。

次に、女性が男性の関係性評価に与える影響を分析したところ、自尊心が高く、安心さがしもせず、自己イメージのみを重視する女性は、相手の男性に不安を抱かせやすいことを示唆する結果が示された。

これらの結果から、安心さがしを行う場合にも、思いやり目標の高さや自己イメージ目標の低さが、相手の評価を向上させる可能性が示唆された。

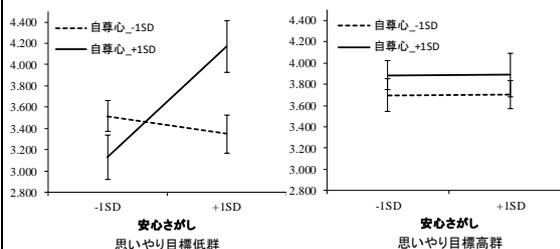


図1 女性の自己拡大・充足感 (Time 2) に対する男性の3要因交互作用

#### ③ 社会的スキルとパーソナリティに関する分析 (論文②)

大学生に対する調査の結果、安心さがしを行う人ほど、社会的スキルの基本スキルのうち、統制スキルが低いことが示された。このことは安心さがしを行う人ほど、コミュニケーション全般において自分の感情をコントロールすることができないと認知していることを示唆する。また、安心さがしを行う人において、低自尊心者は楽観性が低く、高自尊心者は楽観性が高いことが示された。このことは、低自尊心者で安心さがしを行う人は、悲観的でネガティブな認知に基づいて安心さがしを行うため、他者から疎んじられ、嫌われる可能性を示唆するものである。

以上の分析結果から、低自尊心者が安心さがしをする人は、他者と良好な関係を形成しようとする接近的動機づけが低く、関係を悪化させないように心がける回避的動機づけが高いことが示唆された。このような人は、悲観的で、感情を統制するスキルも低いため、ネガティブな安心さがしをしてしまうこと

になり、拒絶されることになる可能性がある。逆に、高自尊心者で安心さがしをする人は、関係を良好なものにしようとする接近的動機づけが高いために、他者から受容される可能性が示唆された。

さらに、恋人・夫婦ペアに関する分析の結果から、当初予測していたような自尊心と安心さがしとの組み合わせによる関係性目標の差異は見られず、むしろ両者との組み合わせによって、相手からの評価に影響を及ぼすことが示された。具体的には、男性では思いやり目標が高ければ、自尊心や安心さがしのレベルにかかわらず、パートナーの女性が自己を拡大し、充足感を得るような関係であると認知するようになるということである。また、高自尊心者は思いやり目標が低くても、安心さがしを行うことで、女性の自己拡大・充足感を促進させる同様の効果を持つことが示されたことから、高自尊心には適切な依存関係を構築するための思いやり目標以外の別の機能が備わっていることが示唆された。

(2) 低自尊心者と高自尊心者の安心さがしは、質的にどのように異なるのか

#### ① 社会的拒絶場面における反応の質的分析 (学会発表⑤)

大学生に対する調査を行い、親友から無視された状況における行動に関する自由記述を収集し、分析した。数量化Ⅲ類による解析を行ったところ、低自尊心者で安心さがしをする人は、「怒る」や「無視」という語と近接して付置しており、無視する親友に怒るという自己本位的な行動傾向が示唆された。それに対して、高自尊心者で安心さがしをする人は、「悲しい」、「落ち込む」という感情語や、「謝る」という行動語と近接していた。この結果は、高自尊心者は、悲しい気持ちになりながらも、友人の状況をみて、相手にまずは謝ろうとする、他者への配慮を伴う行動傾向を示唆するものであった。恋人に対する反応についても同様の差異が見られた。これらの結果から、低自尊心者と高自尊心者の安心さがしにも同様の行動傾向の差異が見られる可能性が示唆された。

#### ② 社会的拒絶への対処行動の分析 (学会発表⑦)

大学生に対する調査を行い、最も親しい同性の友人から無視された場面を想定させたところ、低自尊心者で安心さがしをする人は、消極的な破壊行動をとることが示された。消極的な破壊行動とは、相手とこれ以上関わらないようにする等の回避的な行動である。また、自尊心レベルにかかわらず、安心さがしをするほど、関係志向的行動や関係破壊的行動をとるという結果も示された。これらの結果から、相手から拒絶された可能性がある場面において、低自尊心で安心さがしをする人は、関係の再構築をしようと考えながらも、

同時に関係から離れたたり、いっそのこと関係を解消したりするような行動をとろうとする可能性が示唆された。

#### ③ ソーシャル・サポートの授受に関する分析 (学会発表⑧)

大学生の同性の友人ペアに対する2波のパネル調査を行った結果、低自尊心者で安心さがしをする人は、高自尊心者に比べて、相手に対して、サポートを提供していなかった。これに対して、自尊心の高い人で安心さがしを行う人は、関係を良好なものにするために、他者に対するサポートを提供していた。これらの結果から、このような相手に対するサポート提供が、安心さがしをしても拒絶されるか否かに関与していることが示唆された。

#### ④ 自己開示に関する分析 (学会発表⑩)

大学生の同性の友人ペアに対する2波のパネル調査を行った結果、友人関係の初期段階において、低自尊心者で安心さがしを行う人が、人間関係に関する内的な自己開示をしない場合には、2ヶ月後の同性の友人の印象評価が低くなることが示された。この結果は、低自尊心者が自分自身の不安や心配について安心さがしをするばかりで、ほとんど内面的な自己開示をしないという矛盾した行動をとる場合には、相手から拒否されることを示唆するものである。

#### ⑤ 自他の心理的距離に関する分析 (学会発表⑨)

大学生の同性の友人ペアに対する2波のパネル調査を行った結果、低自尊心者で安心さがしをする人は、友人との心理的距離について、友人自身は近くなったと認知していないにもかかわらず、より近くなったと考えていた。対照的に、高自尊心者で安心さがしをする人は、心理的距離について、友人は近くなったと認知していたにもかかわらず、近くなったと認知していなかった。これらの結果は、低自尊心者で安心さがしをする人における友人との心理的距離に関する誤った認知が、拒絶を引き起こす要因として機能している可能性を示唆するものである。

#### ⑥ 受容認知に関する分析 (学会発表⑩)

大学生の同性の友人ペアに対する調査を行った結果、低自尊心者で安心さがしを行う人のうち、相手から受け入れられているという受容認知が高い人は、低い人よりも、友人からの評価が低いことが示された。この結果は、低自尊心者が友人から受容されているという誤解に基づいて安心さがしをした場合には、相手からの評価が低くなってしまふことを示唆するものである。

以上の分析結果から、親友から無視された状況において、低自尊心者で安心さがしをする人は、無視する親友に怒るという自己本位

的な行動傾向を示した。それに対して、高自尊心者で安心さがしをする人は、悲しい気持ちになりながらも、友人の状況を見て、相手にまずは謝ろうとする、他者への配慮を伴う行動傾向を示した。これらの結果は、同じ安心さがしでも、低自尊心者と高自尊心者では、相手に対する配慮を持てるか否かが異なることを示唆するものである。

このような低自尊心者と高自尊心者の行動的差異は、他の側面でも認められた。低自尊心者で安心さがしをする人は、相手に関係破壊的な行動を取り、ソーシャル・サポートを提供していなかった。そして、そのような状態で相手に対して、自己の内面を開示しない場合には、相手からの評価が低くなってしまふことが示された。

これに対して、高自尊心者で安心さがしをする場合には、関係を良好なものにするために、相手にサポートを提供しており、相手から受容されることが示唆された。

このような低自尊心者と高自尊心者の差異は、何によって生じるのか。それは相手との心理的距離や相手からの受容感の精度による可能性がある。低自尊心者で安心さがしをする人は、相手との心理的距離を相手より近く、受容されていると認知することによって、相手からの評価が低くなってしまふことが示された。これに対して、高自尊心者で安心さがしを行う人は、相手から受容感に対応する形で相手の評価が形成されていた。すなわち、受容感の精度が高かったといえる。

これらの結果から、同じ安心さがしでも、低自尊心者と高自尊心者で、質的な内容が異なることが示された。また、それが相手との関係を悪化させるか否かを規定することが示唆された。

以上、(1)と(2)に示した研究知見を総合して、低自尊心者で安心さがしをする人における下方螺旋過程を、上方螺旋過程に転換させるにはどのような要因が重要となるかを考察する。まずは、(2)⑤と⑥の結果に示されたように、自らの心理的距離の認知は歪んでいる可能性があることを意識する必要がある。その上で、上述の(1)②の結果に示されたように、思いやり目標を持つことが相手からの受容を引き出す最も重要な鍵となると考えられる。自ら受容されているかを相手に繰り返し確認する安心さがしを、自らの感情に流されることなく、相手のことを配慮しながら、二人の関係を重視するような形で行うことができれば、螺旋過程を下方から上方へと修正することにつながる可能性がある。

しかしながら、実際にこのような効果が示されるかどうかは、比較的長期にわたる介入研究によって検証される必要があり、今後の検討が求められる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 長谷川孝治・高橋雄祐 (2017). 制御適合が学習に関する動機づけに及ぼす影響 信州大学人文科学論集, 4. 93-102, 査読有
- ② 長谷川孝治 (2014). 安心さがしと社会的スキルおよびパーソナリティ特性との関連 信州大学人文科学論集, 1, 147-153, 査読有

[学会発表] (計11件)

- ① 長谷川孝治・古里由香里 (2016). 自尊心と安心さがしツイトと他者からの受容認知が感情反応に及ぼす影響——安心さがしツイトで低自尊心者は満たされるか?—— 日本社会心理学会第57回大会, 9. 18, 関西学院大学, 兵庫県西宮市
- ② Hasegawa, K. (2016). Who tweets negative things about themselves? Effects of self-esteem and reassurance seeking on the tweets in the twitter. The 31th International Congress of Psychology, Jul. 28, Yokohama, Japan.
- ③ Hasegawa, K. (2016). Effects of self-esteem and reassurance seeking on the motivation for negative tweets in the twitter. The 2016 International Association for Relationship Research Conference, Jun. 21, Toronto, Canada.
- ④ Hasegawa, K. & Takahashi, Y. (2016). The effect of regulatory fit on learning motivation. The 6th International Conference on Self-Determination Theory, Jun. 3, Victoria, Canada.
- ⑤ 長谷川孝治 (2015). 社会的拒絶場面における反応の質的分析——低自尊心者と高自尊心者の安心さがしの差異—— 日本社会心理学会第56回大会, 10. 31, 東京女子大学, 東京都杉並区
- ⑥ 長谷川孝治・相馬敏彦・木村昌紀・清水健司 (2014). 自尊心と安心さがしが社会的動機づけに及ぼす影響 日本グループ・ダイナミクス学会第62回大会, 10. 11, 奈良大学, 奈良県奈良市
- ⑦ 長谷川孝治・相馬敏彦・木村昌紀・清水健司 (2014). 自尊心と安心さがしが社会的拒絶への対処行動に及ぼす影響 日本心理学会第79回大会, 9. 22, 名古屋国際会議場, 愛知県名古屋市
- ⑧ 長谷川孝治 (2014). 自尊心と安心さがしがサポート授受に及ぼす影響 日本心理学会第78回大会, 9. 12, 同志社大学, 京都府京都市
- ⑨ Hasegawa, K. (2014). The influence of self-esteem and reassurance seeking on psychological closeness between the

self and other: Misperception as a factor inducing rejection. The 28th International Congress of Applied Psychology, Jul. 10, Paris, France.

- ⑩ Hasegawa, K. (2014). The moderate effect of perception of acceptance on the process self-esteem and reassurance seeking influence friend's appraisal: Why are only low self-esteems are rejected? The 15th annual meeting of the Society for Personality and Social Psychology, Feb. 15, Austin, Texas, USA.
- ⑪ 長谷川孝治・鎌田真緒 (2013). 低自尊心者の安心さがしは、なぜ拒絶されるのか—自己開示の観点からの検討— 日本グループ・ダイナミクス学会第60回大会発表論文集, 46-47, 7.14, 北星学園大学, 北海道札幌市

[図書] (計3件)

- ① 長谷川孝治 (2017). 「自分のことのように…… (エピソード32:自己拡張理論)」, 「わたしのこと、本当に好き? (エピソード50:抑うつへの対人理論)」 谷口淳一・相馬敏彦・金政祐司・西村太志 (編) エピソードでわかる社会心理学——恋愛関係・友人関係から学ぶ 北樹出版, Pp.90-91, Pp.136-137.
- ② 長谷川孝治 (2015). 草食系と肉食系 (トピック17) 玉井寛・内藤哲雄 (編) クローズアップ「健康」(現代社会と応用心理学3) 福村出版, Pp.174-185.
- ③ 長谷川孝治 (2014). 自己とは(4-1), 自己意識(4-2) 土肥伊都子 (編) 自ら挑戦する社会心理学 保育出版社, Pp.48-50, Pp.51-53.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

長谷川 孝治 (HASEGAWA, Koji)  
信州大学・学術研究院人文科学系・准教授  
研究者番号: 20341232

### (2) 研究分担者

木村 昌紀 (KIMURA, Masanori)  
神戸女学院大学・人間科学部・准教授  
研究者番号: 30467500

相馬 敏彦 (SOMA, Toshihiko)  
広島大学・社会科学研究科・准教授  
研究者番号: 60412467

清水 健司 (SHIMIZU, Kenji)  
信州大学・学術研究院人文科学系・准教授  
研究者番号: 60508282